

特集

オンライン授業と子どもたち



Q1

学校休校中にどんな
とりくみをしましたか？

「子どもたちが楽しめるような
動画を作って各家庭に送った」

「ユーチューブで動画配信」

「オンライン朝の会」

新型コロナウイルス感染症の拡大をきっかけに、私たちにとってZoomやLINEといったオンラインによるコミュニケーションツールは急激に身近なものになりました。いまや研修やイベントもオンラインで開催されるものが多くなりましたが、障害のある子どもたちにはオンラインのとりくみやツールはどのように影響しているのでしょうか。

今回の特集では学校休校中のオンラインのとりくみや、これまでもオンラインによる授業が行われてきた病弱教育や訪問教育などの実践にも学びながら、オンラインの課題と可能性を考えます。

●子どもたちのなじみの曲を先生たちが歌ったり、手遊び歌や紙飛行機づくりの紹介、また、子どもたちが見て楽しめるような先生たちのフォークダンスや綱引き大会、ジェスチャーゲームなどを撮影、編集し、DVDにして子どもたちの家庭に送りました。
(特別支援学校〈知的〉 中学部)

(特別支援学校〈肢体不自由〉)

●これまでしてきた地域の高齢者施設や子育て支援サークルとの交流ができなくなったので、2学期以降、他校の専攻科や福祉事業型専攻科とオンラインで交流することを視野に入れていきます。
(特別支援学校〈高等部専攻科〉)

●新1年生に向けて登校の仕方、学級教室の様子、クラブの説明などの動画を配信しました。
(中学校特別支援学級)

●小学部は算数、体育、音楽、国語の漢字などの教材の動画をアップして、それを見ながら学習にとりくんでもらいました。
(盲学校)

先生、保護者のみなさんに聞きました

学校休校とオンライン

Q2

休校中にオンラインの
とりくみをしてよかったことは？



●生徒の様子が変わり、話ができることがよかったです。
●全員が見て、家庭学習に利用していました。返事をくれる生徒もいました。
●友だちに会えない、学校のことを忘れるのでは、などの休校中の生徒や保護者の不安に 대응することができました。
●少してはあるが学習もおこない、家庭学習の支えとなることができました。
●吃音のある生徒への配慮がうまくいきました。
(中学校特別支援学級)

(盲学校)

●「先生が歌ってくれた音楽はよく聞いていました」「先生が画面で出てきて喜んでいました」など保護者から声を寄せていただいています。信頼する、慣れ親しんだ教員とつながるということでは、よかったのかなと思います。
(盲学校)

「子どもの様子がわかり、話ができよかったです」
「子どもたちを思い浮かべながらの動画作成は自分にとってもいい時間になった」
「先生や学校とつながることができてよかったです」

(特別支援学校〈知的〉 中学部)